



江原絢子氏からのご意見

伊藤園製品の優れた表示

「開栓後はすぐお飲みください」というのはどの製品にもありましたが、「未開栓の場合は常温で保存できます」ということは調べた範囲内では、伊藤園にだけ書いてありました。また、「凍らせないでください」はほかのメーカーにもありますが、「温めたり凍らせたりしないでください」と「温めたり」が加わって、しかもこれがコールド専用容器と書いてあります。この表示が、非常に分かりやすくここだけ白抜きで、全部が読める大きさに書いてある。そういう点で非常に配慮された優れた表示であり、とても努力をされていると考えられます。

さらに消費者の安全のための教育を

PETボトルに関しては、生産の安全性はもちろんしっかりホームページなどにも書かれています。手に取った消費者がその後、最後まで安全に飲めるための教育についても、印象に残るような仕方を考える必要があるのではないのでしょうか。

食生活全体への提案も取り入れたお茶の教育を

PETボトルになった歴史はまだ浅いけれども、PETボトルの特徴と従来日本茶として飲まれてきたお茶との関連、なぜこういうふうに広まってきているのか、その特徴とか、教育の中で広げていっていただければと思います。また、全体の食生活との関連も含めた提案を教育の中に取り入れていただければ非常に良くなっていくと思います。

CSR活動全体の社員教育は?

消費者に対する各地域の活動についてうかがいましたが、会社のサプライチェーン全体にわたるCSR活動を、たくさんの社員はどれだけ把握しているのか、教育の現状をお聞きしたいと思っています。



江原 絢子氏
東京家政学院大学名誉教授。日本の食文化の専門家。〈専門分野〉消費者課題

伊藤園の対応

消費者課題への対応

基本的に企業使命として、今まさに安全安心が問われています。それを第一義としながら社会とのかかわりも深くつなげていく努力が、まさにCSR活動です。いろいろな社会環境が変化していく中でその変化に対応することにより、企業の持続的な活動につながっていくと思っています。消費者の皆さんに喜ばれる、役に立つ商品をこれからも作っていきたく考えています(本庄(周))。

消費者課題:放射能への対応

放射能の測定に関しては、震災後早期に実施を開始して、4月上旬ぐらいには検査体制を整えたりして、常に安全性が確保できていると考えています(本庄(周))。

伊藤園の食育活動

- 静岡県牧之原市の工場では、牧之原市と伊藤園がタイアップして、工場見学に皆さん方をお招きしています。日本人はもちろん、静岡富士山空港に来られた中国や東南アジアの方々にも工場見学に来ていただき、日本のお茶について説明し、理解して商品を買っていただく取り組みをしています(橋本)。
- お茶の飲み方を中心とした食育活動を、現場の営業が中心になって進めています。これがちゃんとできるように、社内にティーテイスター制度があって、社員がお茶をおいしく煎れて、お茶に関する健康等の話題も自由にできるような勉強をして資格を取った社員が中心になって行っています(江島)。
- 食育は食の知識の普及、健康性、教育的な見地での総合学習など、幅広く推進しています。工場祭、お茶の健康に関する研究フォーラムも毎年開催しています。
お茶だけではなく、野菜飲料も主力商品の一つですが、当社選定品種を公募で「朱衣」という名称をつけたニンジン、これはベータカロチンを豊富に含むニンジンです。実はこれ、ニンジンをテーマにした第5回野菜ソムリエサミット(2010年12月)で、生食部門、蒸し部門で1位になったのです。こういうものも広げるべく、お料理レシピコンテストも行っています(笹谷)。